

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201290		
法人名	(有)コーブンシャ		
事業所名	グループホーム ほのぼの平尾の家		
所在地	三重県四日市市平尾町78-12		
自己評価作成日	平成30年1月16日	評価結果市町提出日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470201290-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470201290-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 2 月 13 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社理念”ゆっくり、いっしょに、たのしく”1日1日を安心して笑顔と笑い声の絶えない利用者に寄り添う職員一同が理解をして支援させて頂いている。高齢の利用者が増え、時折体調不良を訴える方もみえるが主治医との連携が確立されており、24時間体制でつながっている。職員も主治医の指示を仰ぎ、対応しているので家族様にも安心して頂いている。地域との交流も密接で、月一回の地域開催の行事には必ず参加し、当施設の行事にも近隣の方に参加して頂き交流を深めて頂いている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業者のある地区は古くからの住民が多く、人情豊かで、お互いに助け合う精神があり、街中では難しい交流がある。喧騒も関係ない穏やかな時間が流れる場所で、職員も地元の出身者が多く、人情豊かで、理念の「ゆっくり 一緒に 楽しく」が実践されている事業所である。職員は利用者と同じ目線で会話をするのを楽しんでいる。ある職員が話した「排泄物を最初は汚く思っていたが現在は汚いと思わない」という言葉で、母親が赤ん坊の排泄物を汚いと思わないのと同様に利用者を自分の家族のように思い接している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事(ふるさと広場)への参加や散歩時の近隣の方々との会話を通して、地域とのつながりを大切にしている。	代表者が創業時に作った「ゆっくり 一緒に 楽しく」が理念で、テレビの横に大きく掲示している。利用者も時々理念を見て話すので、職員はそうだと笑顔で答えるやりとりがある。テレビを見ながら昔話をしたり、ゆっくりと利用者のペースに合わせた日々を過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度の地域行事である「ふるさと広場」に参加し、いろいろな年代の方々とお話させて頂いている。	利用者が4~5名づつ、公民館内で月に1度開催される「ふるさと広場」の演歌や体操、クリスマスには近所の子供たちも参加するクリスマスゲームに参加している。地域住民とは近所の散歩時に挨拶したり野菜の差し入れがある。また、近隣の子供たちが気軽に来所して一緒に歌を歌ったりと、日常的な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時や地域の行事に参加した時などに地域の方々に介助していただくなど接する機会があり、気軽に話が出来る雰囲気を中心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年六回開催の「運営推進会議」で施設の活動報告、家族様からの要望や意見を参考に意見交換の場として、より良いサービスの向上に繋げて活かしている。	自治会長・民生委員・相談員・包括支援センター・行政・家族・本社常務・管理者の参加で、2ヶ月に1回開催し情報交換が活発に行われている。インフルエンザや地域行事、運営について様々な話題がサービス向上に活かされている。ヒヤリハットについても指摘があり毎回するようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員の方に二か月に一回来て頂き情報交換や近況報告を行い、また意見を頂き相談に乗って頂いている。問題のない時にも運営推進会議等で必ず報告し指導を仰いでいる。	相談員や介護高齢福祉課から運営推進会議に参加があり、入居者状況を報告してアドバイスを得ている。寝たきりの利用者に訪問看護を取り入れたいと考えて、市の事務方とナースステーションについて色々相談したことにより有効な解決策に繋げる事が出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員全員が理解して、拘束しないケアに取り組んでいる。	今まで拘束まで考える対象者がいなかったのが拘束事例がない。玄関の施錠と1階一部、利用者の居室窓は家族同意で施錠している。月1回のミーティングや勉強会をしているが、拘束について話し合う機会が少ない。	拘束について正しい知識を職員全員が持ち、日々の介護に生かす体制作りを目指し、今後は、勉強会や研修で拘束について正しい知識を習得する機会を増やすことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力や虐待、身体的精神的拘束を行わないことは職員全員理解している。小さなことでも見過ごさないよう意識し務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば擁護委員を招き、積極的に勉強会などをしたいが現在行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族や利用者が納得されるまで話し合い、不安や疑問点等が解決されるまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族とは何でも話し合えるように心がけている。意見箱を設置し、苦情などが言いやすいよう努めている。苦情相談窓口があることも説明している。	家族と事業所が良好な関係を築いている。自宅ではなかった笑顔や穏やかな表情が見られると家族から感謝の言葉がある。運営推進会議に家族の参加もあり、色々な質問や意見がある。毎日、11時から15時に行っている365歩のマーチでリビングから廊下を歩く室内歩行散歩も家族意見から実施するようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、代表者を交え職員全員でミーティングを行い、話し合いをして意見交換を行っている。また、それを支援に反映させている。	職員のミーティングを毎月20日の9:30～12:00に行っている。様々な意見があり、利用者の座る席を換えたり、お尻拭きをなるべく使わずシャワートイレを使用することにもつなげるなど運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には日ごろから職員の要望や意見を聞いてもらい、理解してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者には研修や勉強会等に参加しやすい職場環境になるよう協力してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設とのネットワークづくりや勉強会等の機会を設け(介護の手)サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の困っている事、不安な事など思いを受け止め、安心されるまで話し合いを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時には十分な時間を取り、本人やご家族の不安や要望などに耳を傾け、安心して入居できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の話聞き、状況を把握し必要としている支援を見極め、他のサービスも含めて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見極め、一緒おこなったり、時には教わったりしながら家族の一員として支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にはゆっくり過ごして頂き、また施設での生活の様子を伝え、その人らしい生活をして頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの深い知人等の面会等はゆっくり過ごして頂くように配慮している。また、馴染みの深い場所へも外出支援している。	利用者全員の馴染みの人や場所を把握していないことと、人手不足から個別の支援が難しい状況である。全員で行けるお宮参りには毎年行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう職員が間に入って良い関係が保たれるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談等の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や嗜好を楽しめる様に配慮している。本人と対話することで気持ちを聞き、関心のあることを探るようにしている。	利用者3名が職員の言葉の把握が困難であり、その内1名が発する言葉を職員も把握に苦勞している。しかし、毎日の生活で思いや意向をそれなりに分かって親しく会話している。利用者のつぶやきや会話内容を日報に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から今までの生活環境等を詳しく訊いて、本人にとってどのようなケアが適切なものを職員同士で話し合い、見直したりして実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に合った生活のリズムを大切にして、体調の変化に気を付け、変化があった場合は速やかに対応に努めている。また得意な事を行い楽しく過ごしていただくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ミーティングを行い、カンファレンスをして見直しがあれば変更し、面接時等にご家族より意見等を聞き介護計画の作成に反映させる。	利用者の担当職員が決まっており、月に一度のミーティングで担当職員を中心に意見交換が行われている。見直しが必要な時には、他の職員や家族意見も取り入れて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に記録したり、職員間で申し送りを行っている。気づいたことや個々のケア等は連絡帳に記入し情報を共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状の急変時、ご家族の対応が難しい時は職員が受診に同行している。日用品の購入等は柔軟なサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々の支援を受け「ふるさと広場」等、いろいろな行事に参加させて頂き楽しんでいる。時々、外食をして豊かな暮らしを楽しめる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診と年一回の健康診断を受けている。急変時の対応も可能であり、二十四時間体制で連携をとっている。急に体調が悪くなった場合も往診してもらっている。	協力医の定期健診を1回4～5人づつ受けており、利用者1人が月2回受診している。よって毎週協力医が来所している。緊急時には24時間連絡が取れる体制になっており、適切な助言が得られるので安心した生活に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば、情報や気付いたことを詳細に伝え、適切な対応して頂けるように、かかりつけ医院と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と病院ケアワーカー・ご家族で連携して情報交換や相談をして、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、出来る場合・出来ない場合もあるので、入居時に話し合っている。また、入居時に他の施設の申し込みも同時にして頂くよう支援している。	入居時に説明しているが、現状出来る事と出来ない事があるので、重度化した時には転院や他施設へ移っている。事業所として将来出来るか検討しているが、今すぐ看取りを実施できる体制になっていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の仕方・急変時の対応は医師に連絡して指示を受ける。日頃からいろいろな急変や事故を想定し救急対応での通報訓練を定期的に行い対処できるように行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を行い、職員全員で安全対策を確認し、消防署からの講習などにも参加し運営推進会議で近隣住民との相談など協力体制を築いていく練習している。	避難所は公民館になっているが、火事以外は建物が堅固であることから施設に留まる判断をしている。3日分の水や食料を備蓄しているが、それで大丈夫か検討している。連絡網はあるが防災マニュアルが無い。	連絡網はあるが災害別のマニュアルが無いので、災害時に適切な行動が出来ない事もある。夜間に夜勤の職員1人でもマニュアルに沿った行動が出来るように早急な災害別マニュアル作成が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶や言葉かけは丁寧な言葉遣い、かつ温かみのある対応を心がけている。プライバシーに関しては利用者の人権を尊重し、細心の注意を図り接している。	家族が来所した時にゆっくり居室で話してもらったり、トイレ誘導もさり気なくしたりと誇りやプライバシーに配慮している。特に管理者は言葉使いの指導に力を入れている。職員が外部の方と話す時に丁寧な言葉使いをして、内容を全職員と共有して失念が無いように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに機転を利かせて行動し、訴えには耳を傾けて、出来る限り迅速に意に沿えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を見ながら支援し、意思や主張を優先したうえで一人ひとりのペースを大切に過ごして頂けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体調や目的に応じて身だしなみやおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。施設での訪問理容を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや旬の物、行事料理と一緒に考え調理して喜んで頂いている。昼食も一緒に会話しながら、楽しい雰囲気心がけている。後片付けも手伝って頂いている。	食事はその時の担当職員が作り、メニューも担当者に任せている。利用者も芋の皮むきや食器を洗ったりして、出来る事を失わないようにしている。行事食として恵方巻きやひな祭りのちらし寿司、お節や七草粥が出されている。季節毎に外出支援を組んでおり、帰りに外食もしている。去年、初めて回転寿司に行き喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して主食・副食は重ならないようにメニュー記録を見ながら、栄養のバランスを考え提供している。一人ひとりの体調に合わせ量などを決めている。水分補給も随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの出来る力に合わせて、毎食後、歯磨き・義歯洗浄を見守り介助で行い、清潔を保てるよう支援している。夜間は義歯洗浄液に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、個々に応じて時間をみて声掛け、見守りでトイレでの排泄の支援をしている。	チェック表でトイレ誘導をさりげなく行っている。布パンツが2名、リハビリパンツが7名で、オムツをなるべく使用しない方針である。オムツでそのままが良いとならない方針を持って排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表を記入し、長期間便秘の方には医師に処方された内服液で調整している。食事や水分にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二組に分けて一日おきに入浴して頂いている。本人の体調に合わせた支援を行っている。	2日に1回am9:15～am11:00の入浴である。浴槽はジャグジーで心地良く、換え湯はしないが出しっ放しの足し湯をしている。季節の菖蒲や柚子を入れて楽しむ事もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の体調や希望に合わせて、テレビを見るなどしてゆっくりとした休憩が取れるよう配慮している。夜間、眠れない方には会話を持って安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬出来るよう、日にち・名前を記入し必ず見守りの元、確実に服用されたかチェックする。薬の準備は職員二名で確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話の中から、お好きな事・得意な事を見つけ出し一緒に行くことで、楽しんだり気分転換を図ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は施設前の公園などへ出かけたり、季節に合わせた行事・外出支援を行っている。毎月「ふるさと広場」へ出かけている。	戸外散歩は3日に一度くらいのペースで、現在は家族提案ですようになった室内散歩が多い。季節毎に計画に入れた外出支援は、利用者をグループ毎に支援しており、職員の配置上個別支援は難しく家族対応が現状である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は施設で管理し、必要に応じて代行して支払っている。一緒に買い物に行かれた時など、いつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話・手紙の支援を行っている。はがき・切手などは預り金から購入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ花などを共用の空間に飾り、四季の変化を楽しみながら生活して頂くよう工夫している。毎日できる方には、掃除のお手伝いをして頂いたり、居心地よく過ごせるよう支援している。	建物が民家を改装しているので、廊下は車椅子移動が出来ない狭さだが、居間兼食堂も普通の家庭と変わらないのが利用者にとって安心感がある。日差しが入る窓際には利用者全員が並んで座ってテレビを見れる長尺ソファが配置されており、アットホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	誰とでも会話ができるよう配慮して席を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には使い慣れた馴染みの物や思い出の物を飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	広々とした居室に十分な収納スペースがあり、家族や親しい方が来所時にゆったりと会話して過ごせる空間である。職員がいつも清潔に保っているため快適な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置しており、安全に楽しく生活出来る様、不備があれば直ぐに修理改善するようにしている。トイレや浴室など表示をし、分かり易くしている。		